

大学自己評価部会だより

第63号 (令和元年6月)

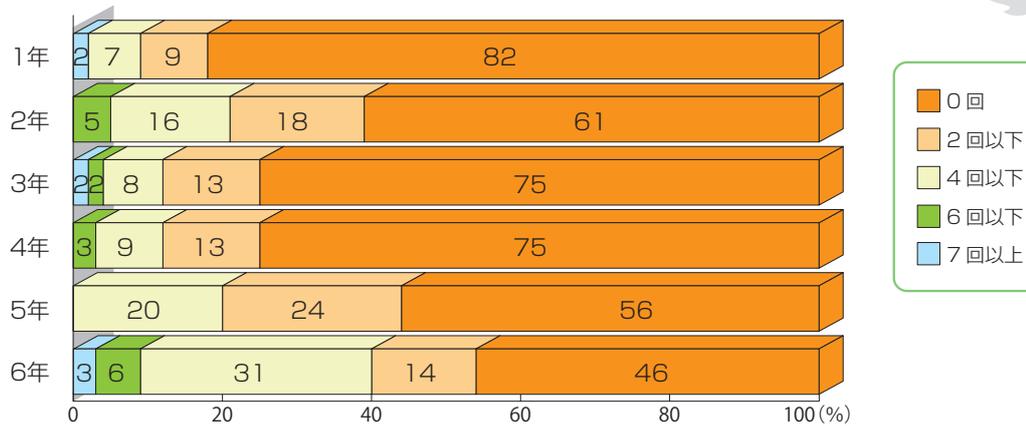
アンケート調査結果を報告します

歯学科、口腔保健学科の学生を対象としたアンケートから、歯学科の助言教員の利用度、全学の学習相談や助言、奨学制度、サークル活動の満足度について調査しました。

① 歯学科の助言教員制度の利用度

平成29年度に助言教員制度を「利用した」と回答した学生は歯学科全体では33%でした。学年別に見ると、3、4年生でも約25%の学生は助言教員制度を利用していることが伺えます。

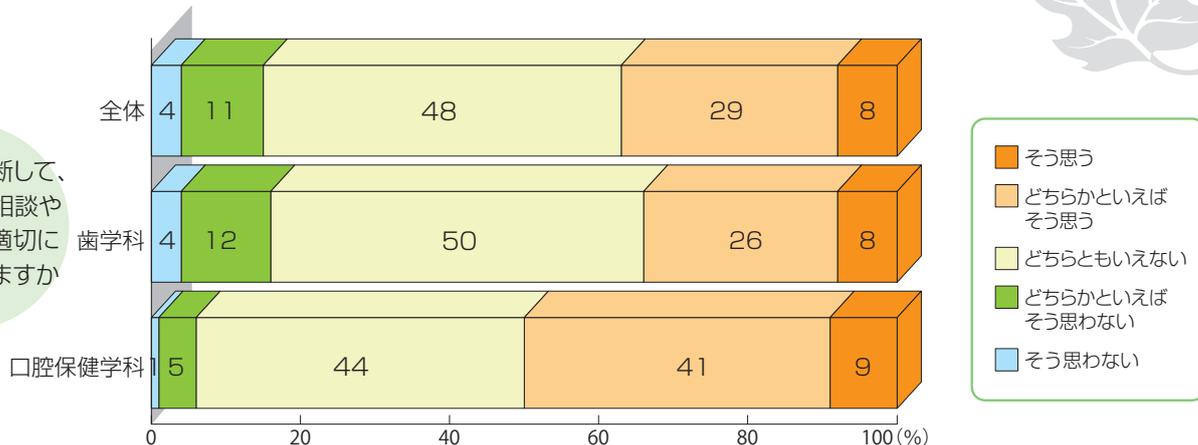
助言教員制度を何回利用しましたか (歯学科)



② 学習相談や助言に対する満足度

平成29年度の学習相談への全体的な満足度は平成28年度とほぼ同じでした。学科別に見ると歯学科より口腔保健学科の方が満足度が高くなっています。

総合的に判断して、本学の学習相談や助言などは適切に行われていますか

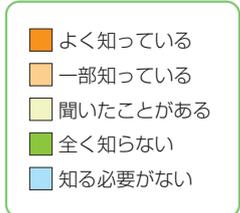
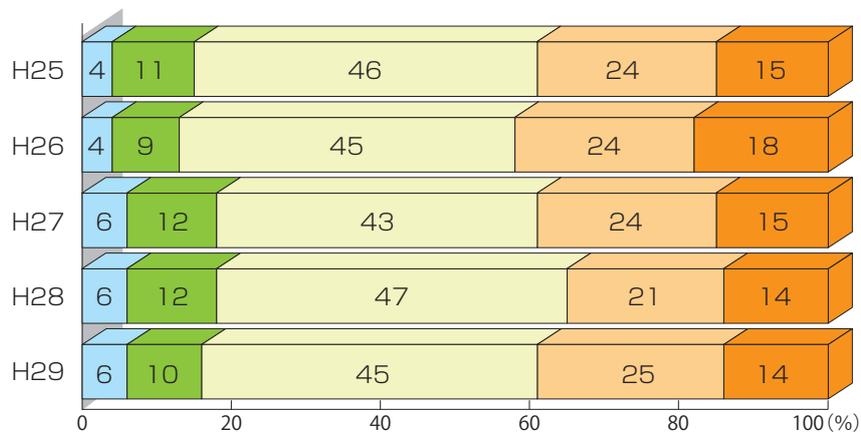




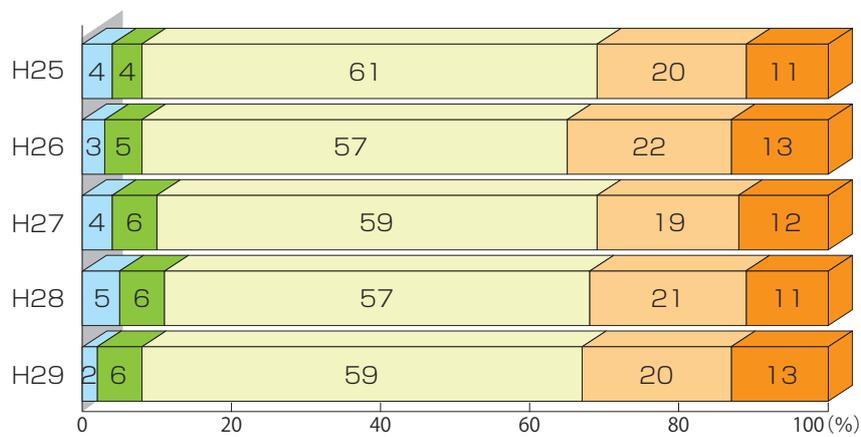
③ 奨学制度について

平成29年度、奨学制度を「知らない」学生は全学で10%でした。必要としている学生へ周知できるように努めなくてはなりません。

本学で取り扱っている奨学制度を知っていますか



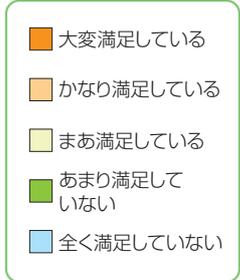
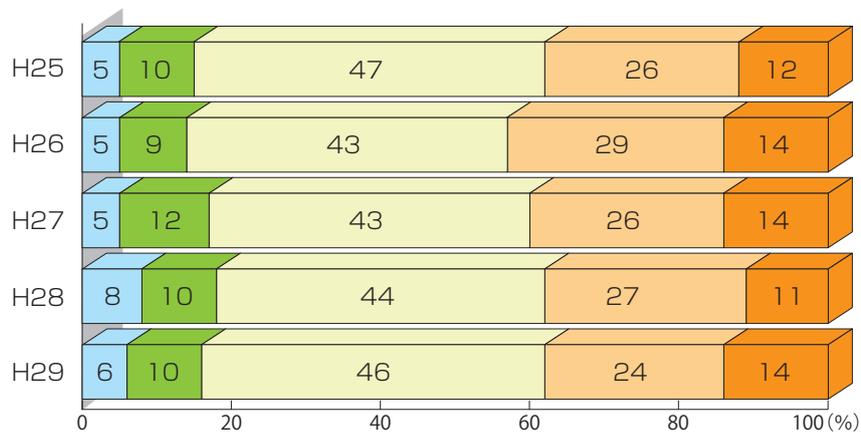
奨学制度は充実していると思いますか



④ サークル活動への満足度

本学では在学生の約9割が1つ以上のサークルに所属しています。程度に差はありますが、学生の8割以上がサークルに「満足している」と回答しています。

サークル活動・部活に満足していますか



大学自己評価部会だより

第64号 (令和元年7月)

九州歯科大学憲章(抜粋) 2.九州歯科大学の基本理念

九州歯科大学の基本理念を以下のとおり定め、九州歯科大学がどのような人材の養成、社会貢献、および研究活動を展開するのかをここに明らかにします。

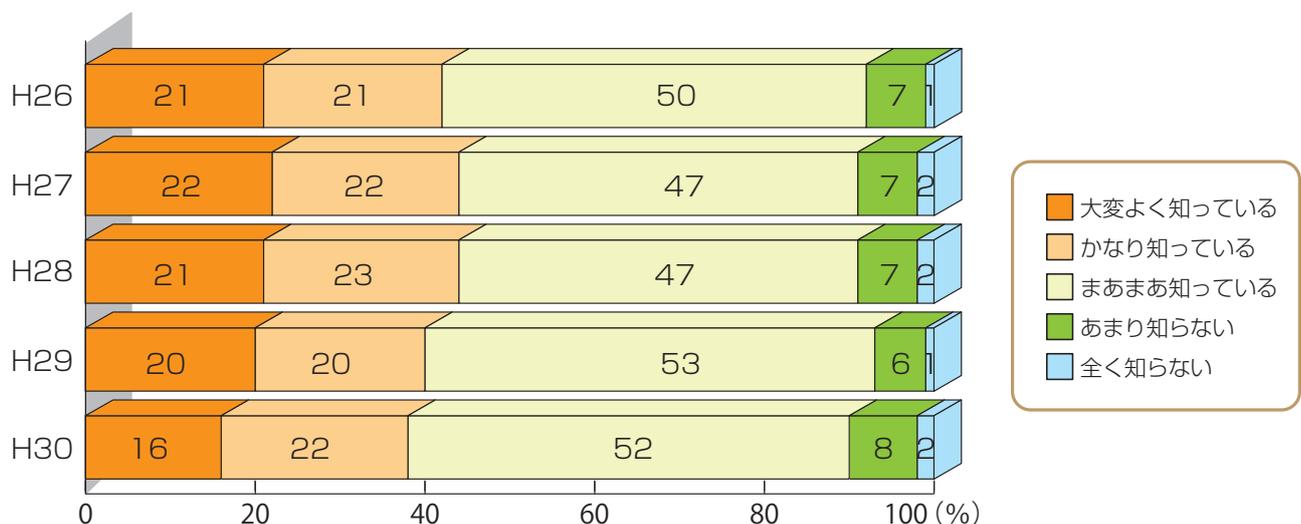
- ・ 高度な専門性を持った歯科医療人の育成
- ・ 地域医療の中核的役割を果たす
- ・ 歯科医学を支える研究の推進

アンケート調査結果を報告します

学部学生を対象とした大学の基本理念の周知度、講義、実習および大学教育への満足度を平成26年度～平成30年度で比較しました。

① 大学の基本理念の周知度

九州歯科大学の基本理念についての周知度は、9割の学生がある程度以上知っている状態が維持されています。平成30年度で大変よく知っている学生の割合がわずかに減少しているのが気になります。今後も、継続的に大学の基本理念の周知に努めていく必要があります。

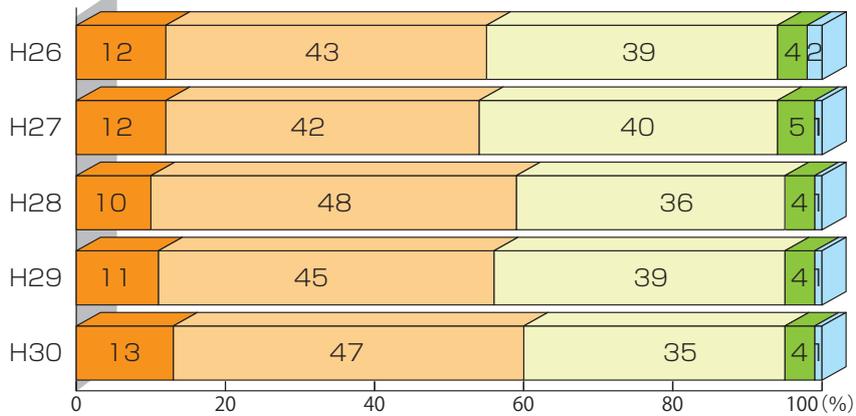




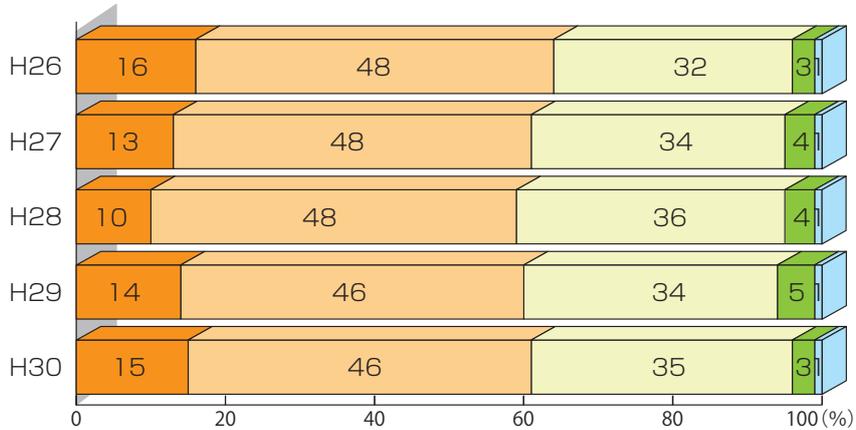
② 講義、実習の満足度

平成30年度は、ほぼ例年と同様の傾向を示しています。講義の満足度では(高いおよび少し高い)の割合は上昇して6割となりました。実習の満足度では(高いおよび少し高い)の割合も6割を維持しています。今後とも講義および実習の満足度が増加するように改善の努力を続ける必要があります。

講義の満足度

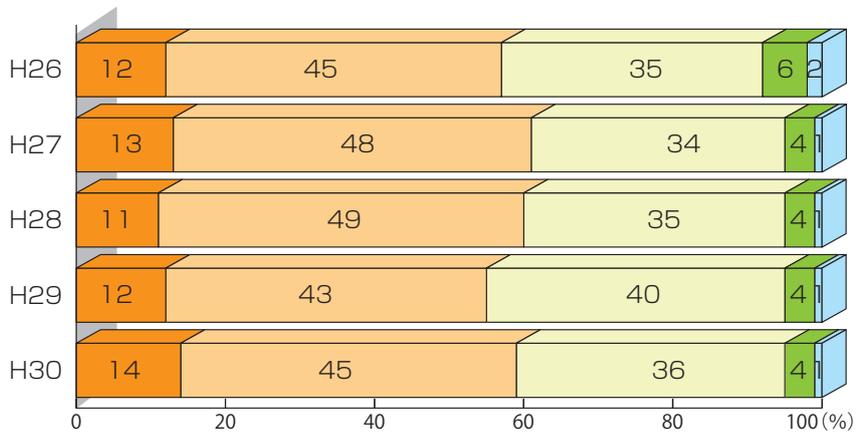


実習の満足度



③ 大学教育への満足度

大学教育への満足度について平成30年度は、平成29年度に比べ(高いおよび少し高い)の割合の上昇がみられました。(少し低いおよび低い)の割合は変化がありません。大学教育の満足度が増加するようにさらなる教育改善の努力を続けていかなければなりません。



大学自己評価部会だより

第 65 号 (令和元年 9 月)

■教育研究目標

九州歯科大学は、基本理念の実現に向けて、以下のような教育・研究を行います。

- (1) プロフェッションとしての人間性、豊かな教養、専門知識および技能の備わった歯科医療人を育成する。
- (2) 科学的情報を正しく解釈し、根拠に基づいた歯科保健医療活動が行える人材を育成する。
- (3) 全身の健康という視点に立ち、いかなる社会構造の変化にも対応できる歯科医療人を育成する。
- (4) 多職種と連携し、歯科保健医療を通じて地域社会に貢献することができる歯科医療人を育成する。
- (5) 国際連携交流活動を強化し、国際的な視野に立って歯科保健医療活動が行える人材の育成を推進する。
- (6) 学際領域の学問分野と協働し、地域社会の発展に寄与する国際的な研究を展開する。

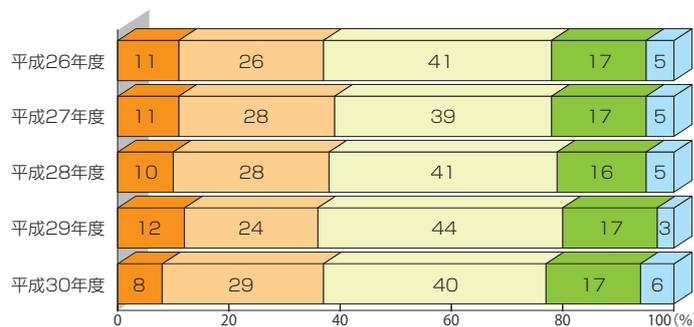
アンケート調査結果を報告します

学部学生を対象とした図書館関連施設、IT関連施設、体育関連施設等の満足度を平成26～平成30年度の各年度で比較しました。

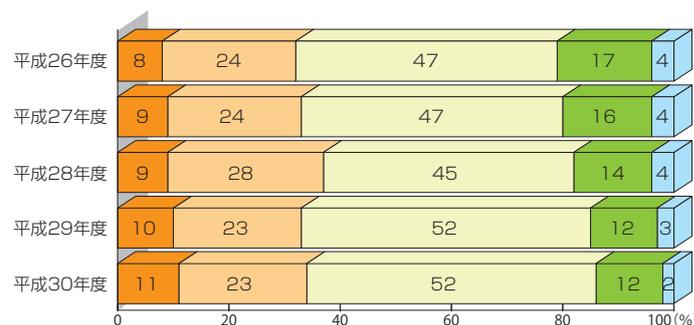
① 図書館関連の満足度

図書館の図書の満足度について、平成26年度から平成30年度にかけて、(あまり満足していない、全く満足していない)の割合の減少が認められました。今後もさらに学習環境および図書の満足度が上昇していくように、改善を継続していかなくてはなりません。

図書館での
学習環境の
満足度



図書の
満足度



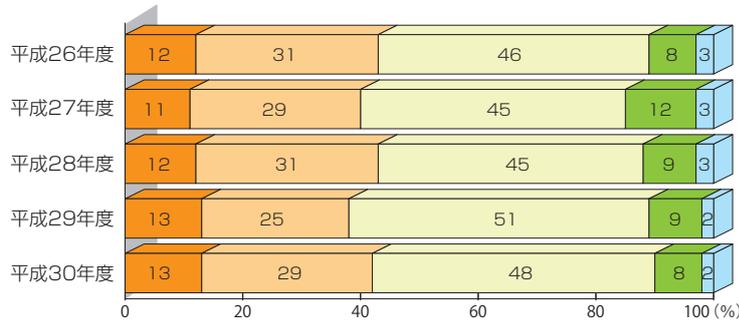
■ 大変満足している
■ かなり満足している
■ まあ満足している
■ あまり満足していない
■ 全く満足していない



② IT関連施設等の満足度

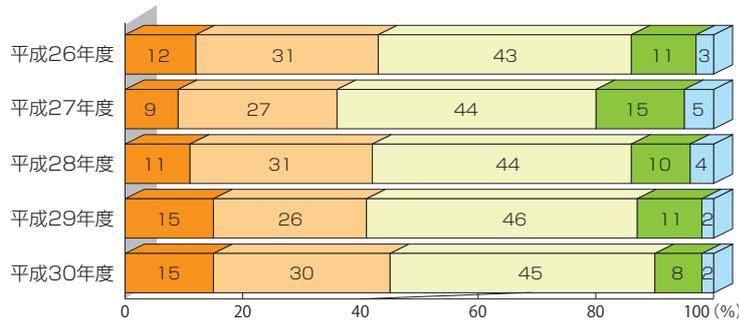
平成26年度から平成30年度にかけて、演習室およびパソコンの満足度について、(大変満足している、およびかなり満足している)の割合が4割前後を維持しています。

コンピューター 演習室の 満足度



- 大変満足している
- かなり満足している
- まあ満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

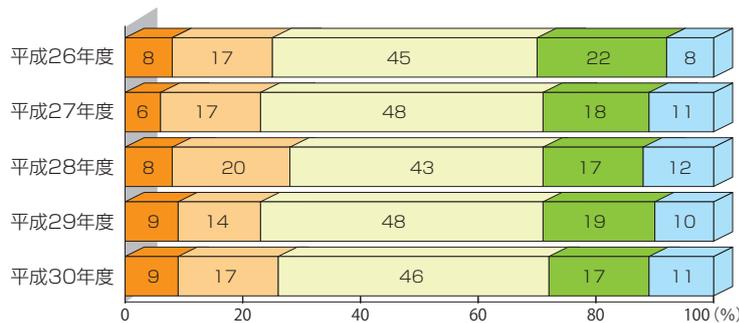
パソコンの 満足度



③ 体育関連施設の満足度

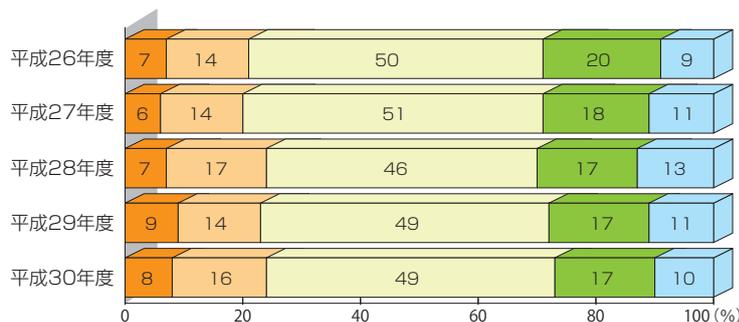
平成26年度から平成30年度にかけて、体育館およびグラウンドの満足度について、(大変満足している、およびかなり満足している)の割合が2割前後を維持しています。

体育館の 満足度



- 大変満足している
- かなり満足している
- まあ満足している
- あまり満足していない
- 全く満足していない

グラウンドの 満足度



大学自己評価部会だより

第66号 (令和元年11月)

■歯学科カリキュラムポリシー

1. 全人的歯科医療人として具備すべき、倫理観やコミュニケーション能力を涵養するために、人文科学系科目・社会科学系科目を充実させる。
2. 歯科医療の高度な専門知識・技能を養成するために、専門基礎分野および専門臨床分野科目を充実させる。
3. 科学的根拠に基づいた歯科医療を実践するために、ロジカルおよびクリティカルシンキングを重視した科目を充実させる。
4. 全身の健康増進の視点に立った歯科医療を実践するために、関連医学科目を充実させる。
5. 多職種連携の重要性を理解するために、学外病院施設での臨床実習科目を充実させる。
6. 医療の国際化に対応できる歯科医療人を養成するために、実践的な外国語教育科目を充実させる。
7. 問題解決能力および研究能力を醸成するために、テュートリアル教育・研究室配属などの科目を充実させる。

アンケート調査結果を報告します

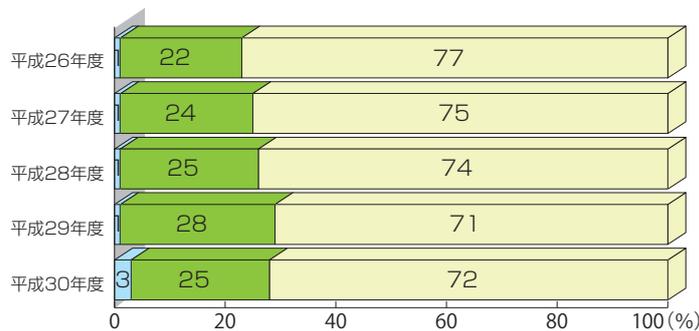
心身の健康に関する相談室の認知度、自主学習の場所と時間に関する状況および生活面でのニーズの把握の満足度について、平成26年度～平成30年度の5年間を比較しました。

① 健康に関する相談室の認知度

健康管理室と学生相談室(旧カウンセリング・ルーム)の認知度は高い状況です。今後も現状の認知度を維持していければと思います。平成30年度の利用状況は、健康管理室が延べ461人の利用、学生相談室が延べ153件の相談件数でした。

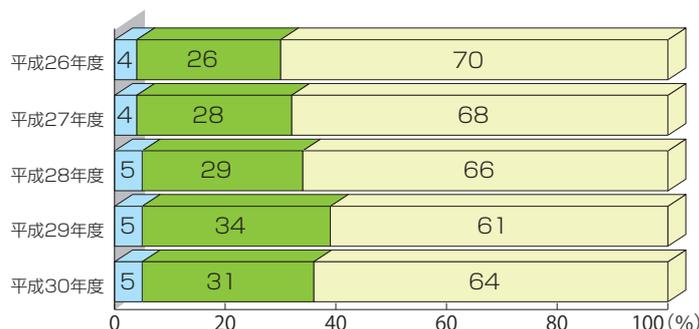


本学に
健康管理室があるの
を知っていますか。



□ 知っている
■ 何となく知っている
■ 知らない

本学に学生相談室
(カウンセリング・ルーム)が
あるのを知っていますか。

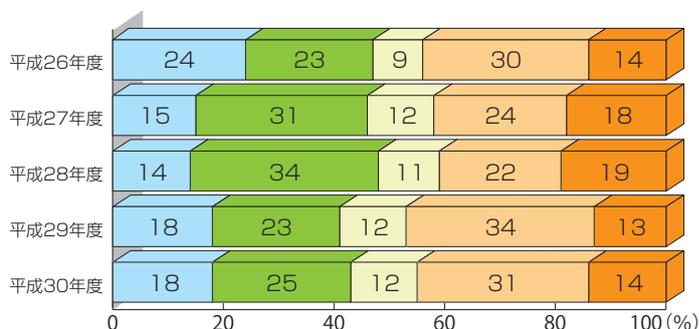


② 自主学習の場所と時間

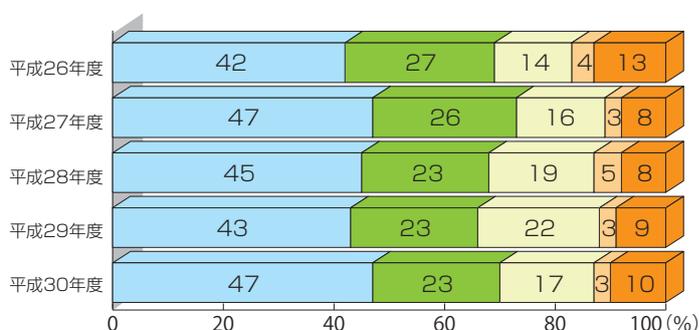
休日の自主学習場所と1日の自主学習時間は、年による変動はあまり見られません。ラーニングコモンズの取り組みの自主学習へのよい影響に期待しています。



土日・祝祭日など、
大学が休みの時の
自主学習は主に
どこを利用しますか。



試験勉強を除く
あなたの自主学習
時間は、1日平均
何時間ですか。

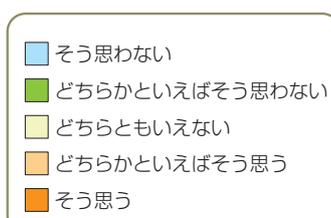
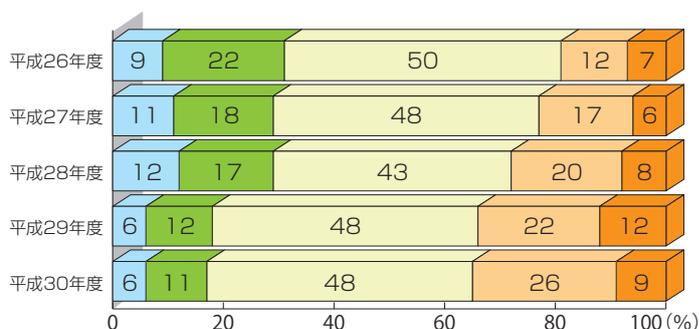


③ 生活面でのニーズの把握に関する満足度

生活面でのニーズの把握に関する満足度は改善傾向です。しかし、「どちらともいえない」の割合は約5割です。今後も生活面でのニーズの把握とニーズに即した改善に努め、改善点の学生への案内もしていければと思います。



本学として、
生活面での皆さんの
ニーズを適切に把握し
ていると思いますか。



大学自己評価部会だより

第67号 (令和2年1月)

カリキュラム・ポリシー

大学院歯学研究科では本学の理念および教育研究目標にもとづき、学位授与の方針が明確に定められています。デュプロマ・ポリシーとは、学位授与の判断のための基本的な考え方として、育成する人材が身につけるべき能力を示したものです。

博士課程のデュプロマ・ポリシー

- (1) 生命科学に関する幅広い知識を習得し、自らが主体的に研究を遂行できる総合的能力が備わっていること
- (2) 高度専門的医療人として、クリティカルシンキング能力を有し、臨床の場で先駆的医療の発展に貢献する能力が備わっていること
- (3) 歯学教育に関する多面的な知識と専門的知識を併せ持ち、歯学界をリードする能力が備わっていること
- (4) 学際領域の学問分野を礎に地域社会と連携した研究を展開し、地域社会の発展に寄与する能力が備わっていること
- (5) 海外の研究者との積極的な情報交換を行い、国際社会へ研究成果を発信できる能力が備わっていること
- (6) 生涯にわたり研鑽し、口腔領域の研究を先端的・独創的に推進する能力が備わっていること
- (7) 国内外の大学において研究者として活躍できる能力が備わっていること

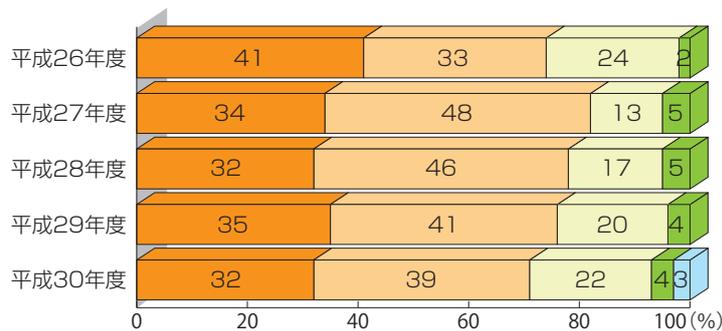
アンケート調査結果を報告します

大学院生の履修科目についての満足度、履修の方法や制度の理解度および研究の実態などについて、平成26～30年度の5年間を比較しました。

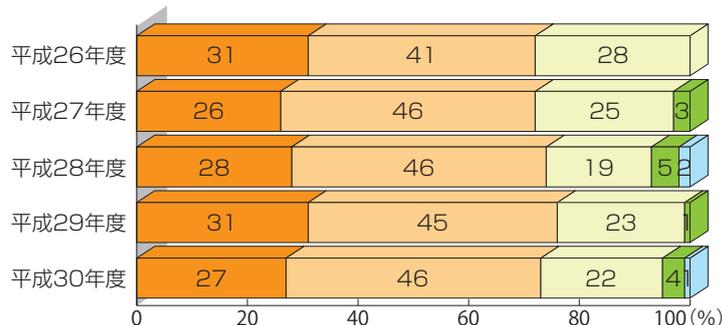
① 主科目および副科目・選択科目に対する満足度

大学院では毎年講義内容の見直しを行い講義・実習の充実を図っており、70%以上の学生は「高い」「少し高い」満足度を感じています。

主科目に対する満足度



副科目・選択科目に対する満足度



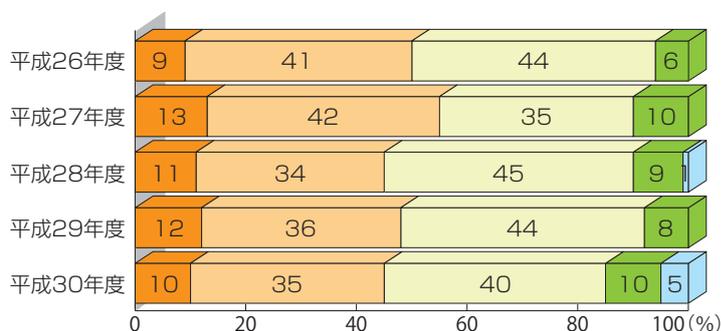
■ 高い
■ 少し高い
■ 普通
■ 少し低い
■ 低い

② 授業要綱や学習相談などについて

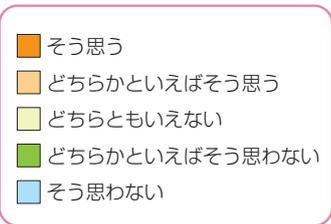
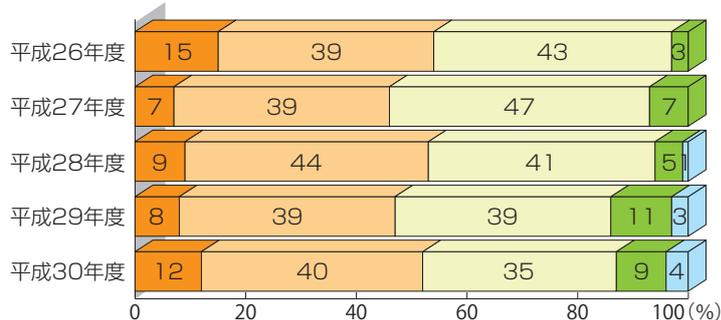
大学院生が大学に求めるものは個々に異なりますが、大学院のカリキュラム・ポリシーの周知とともに、指導する学生にとって相談や意見交換しやすい環境を整えましょう。学生目線で分かりやすい授業要綱となるよう毎年の見直しを心がけてください。



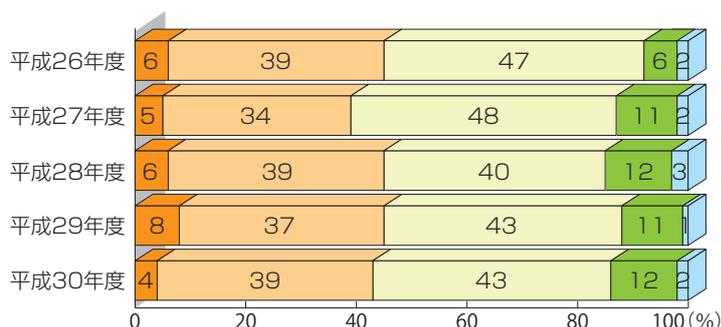
授業要綱は
分かりやすいですか



学習相談や助言などは
適切に行われていると
思いますか



大学は皆さんの
学習面でのニーズを
適切に把握しているか
と思いますか

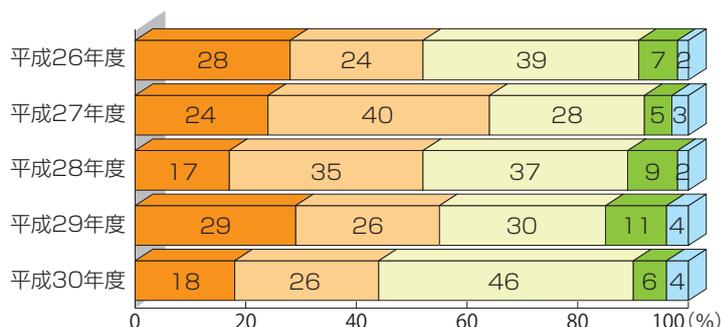


③ 研究指導に対する満足度

研究指導に対して満足度が低い・少し低い学生の割合は昨年より減少しましたが、満足度の高い学生の割合が一昨年のレベルまで漸減しました。指導教員の先生方は、この結果に留意して大学院生との密なコミュニケーションを心がけてください。



現在の研究指導に
満足していますか



この「大学自己評価部会だより」にご意見の方は kikaku@kyu-dent.ac.jp へお願いいたします。

大学自己評価部会だより

第68号 (令和2年3月)

アンケート調査結果を報告します

平成27～30年度の口腔保健学科1年生および平成26～30年度の歯学科1年生において、各学科のアドミッションポリシーの周知度について比較しました。

口腔保健学科のアドミッションポリシー（このような学生を求めています）

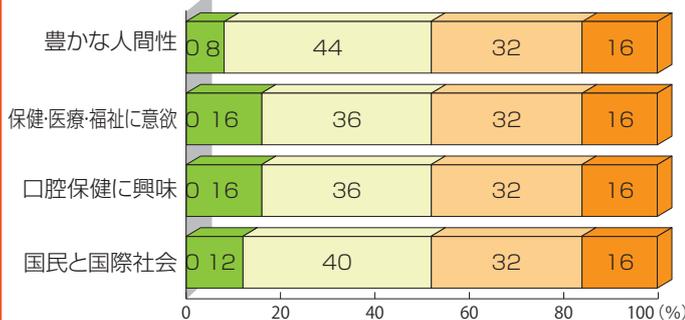
- ・ 口腔保健学を中心とする学士課程教育を受けるために必要な幅広い基礎学力を備えている人
- ・ 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、主体的に多様な人々と協働できる人
- ・ 論理的思考能力および問題解決能力を備え、自ら新しい課題に意欲的にチャレンジする人
- ・ 口腔保健および保健医療福祉に強い興味を持ち、生涯を通じて学習意欲を持続できる人
- ・ 歯科衛生士として地域住民の健康増進および国際社会に貢献しようという強い意欲を持った人

口腔保健学科におけるアドミッションポリシー周知度

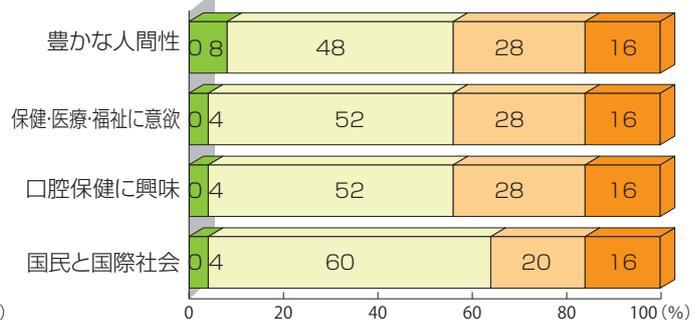
各項目の周知度は高い状態を保っています。平成27～30年度の回答では全ての項目で「全く知らない」と回答した人はいませんでした。とくに平成29年度では「たいへんよく知っている」「かなり知っている」と回答した人が非常に増加してしまいました。さらなる周知度の維持・向上を期待します。



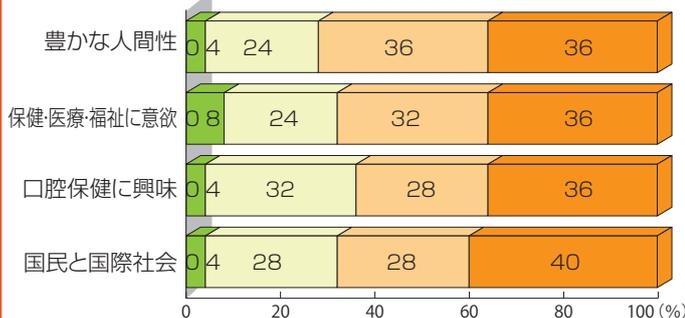
平成27年度



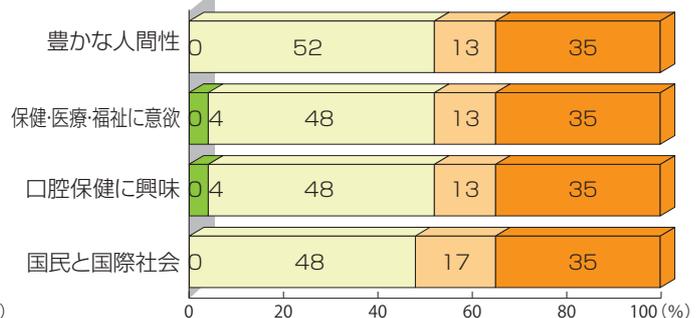
平成28年度



平成29年度



平成30年度



全く知らない あまり知らない まあまあ知っている かなり知っている たいへん良く知っている

歯学科のアドミッションポリシー（このような学生を求めています）

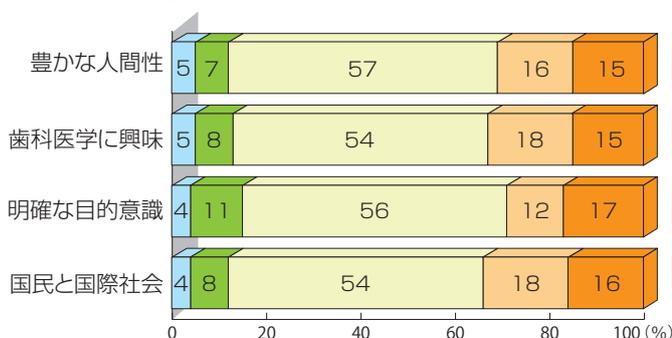
- ・ 歯科医学および歯科医療の修得に必要な幅広い基礎学力を備えている人
- ・ 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、主体的に多様な人々と協働できる人
- ・ 論理的思考能力および問題解決能力を備え、自ら新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
- ・ 歯科医学および歯科医療について明確な目的意識を持ち、生涯を通じて学習意欲を持続できる人
- ・ 歯科医師として地域住民の健康増進および国際社会に貢献しようという強い意欲を持った人

歯学科におけるアドミッションポリシー周知度

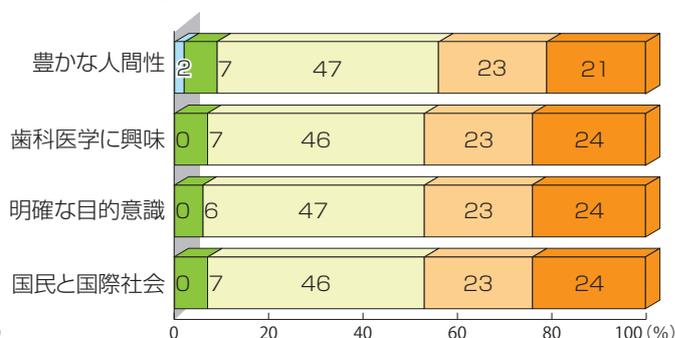
平成29年度は、「たいへんよく知っている」「かなり知っている」と回答した人が減少しました。平成30年度には平成26～28年度とほぼ同様の傾向まで回復しましたが、口腔保健学科1年生に比べて周知度は低いままです。さらなる周知度の上昇を望みます。



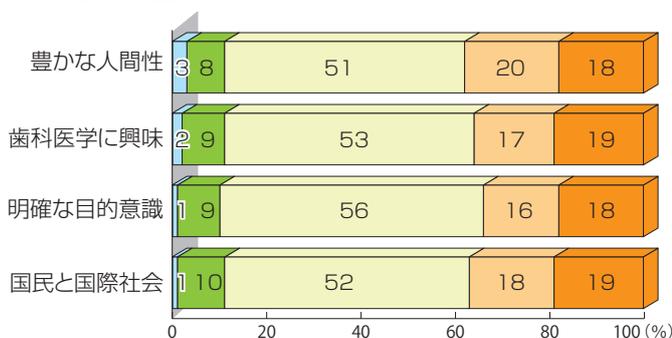
平成26年度



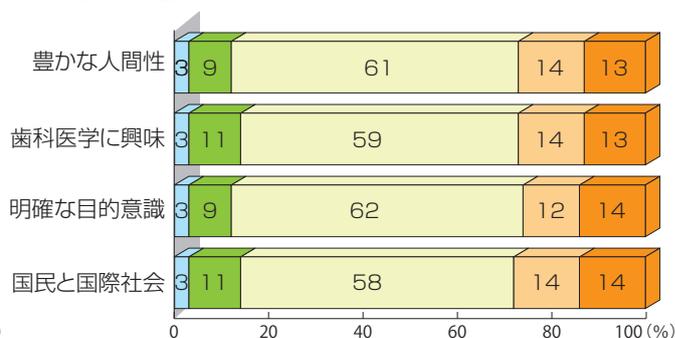
平成27年度



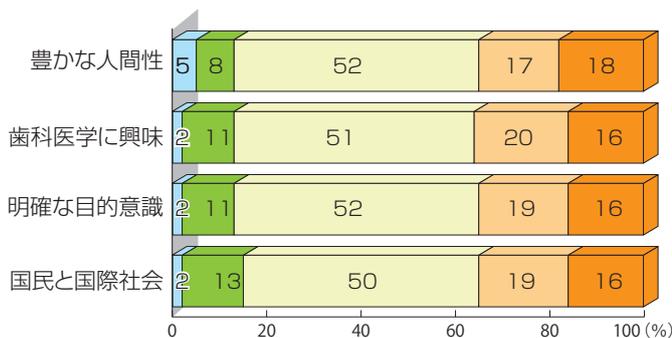
平成28年度



平成29年度



平成30年度



- たいへん良く知っている
- かなり知っている
- まあまあ知っている
- あまり知らない
- 全く知らない